

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1. 測定結果：

(データ集約: 3/9)  
(単位: Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日	Pu-238	Pu-239+240
①グラウンド(西北西約500m) ※ <sup>1</sup>	2015年11月9日	N. D. [ $1.5 \times 10^{-2}$ ]	N. D. [ $1.4 \times 10^{-2}$ ]
②野鳥の森(西約500m) ※ <sup>1</sup>		N. D. [ $1.6 \times 10^{-2}$ ]	$(1.7 \pm 0.17) \times 10^{-1}$
国内の土壌 (昭和53年～平成20年) ※ <sup>2</sup>		N. D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N. D. $\sim 4.5$

[ ]内は検出限界値を示す

※<sup>1</sup>: 過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。

※<sup>2</sup>: 出典「環境放射線データベース」(文部科学省)

2. 分析機関：株式会社 化研

3. 評価：

2015年11月9日に検出されたPu-239+240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

以上